

植樹式 2005



時の蘇生・柿の木プロジェクト

4月19日		リュブリャナ市立博物館 スロベニア・リュブリャナ	1
4月21日		サルチェード小学校 イタリア・ヴィチエンツァ県・サルチェード市	2
4月21日		ズリアーノ小学校 イタリア・ヴィチエンツァ県・ズリアーノ市	3
4月22日		モンテッキオ・プレカルチーノ図書館 イタリア・ヴィチエンツァ県・モンテッキオ・プレカルチーノ市	4
4月22日		ドウエヴィツレ小学校 イタリア・ヴィチエンツァ県・ドウエヴィツレ市	5
4月23日		アーノルド・フジナート小学校、中学校 イタリア・ヴィチエンツァ県・ブレガンツェ市	6
4月23日		コッローディ小学校 イタリア・ヴィチエンツァ県・ティエネ市	7
4月24日		ヴィッラヴェル児童公園 イタリア・ヴィチエンツァ県・ヴィッラヴェルラ市	8
4月26日		サン・ピエトロ・ムツソリーノ中学校 イタリア・ヴィチエンツァ県・サン・ピエトロ・ムツソリーノ市	9
4月27日		ファエタノ公園 サンマリノ共和国・ファエターノ	10
4月29日		ランベール美術館 フランス・アヴィニョン	11
4月30日		サン・ガブリエル小学校 フランス・アヴィニョン	12
5月8日		ハッセルト市日本庭園 ベルギー・ハッセルト	13
5月13日		夢の森幼稚園 日本・神奈川県・川崎市	14
5月14日		ハラミュージアムアーク 日本・群馬県・渋川市	15
6月3日		コリンウッド・スクール カナダ・バンクーバー	16



ヴィチエンツァ（植樹場所不明）
イタリア・ヴィチエンツァ県



大垣市立江東小学校
日本・岐阜県・大垣市



大垣市立荒崎小学校
日本・岐阜県・大垣市

リュブリャナ市立博物館

 スロベニア

 リュブリャナ

 2005年4月19日

セザム親子協会を主催するナダ・キン・スポラーさんは、2000年にデベリスロベニア赤十字青少年健康リゾートとアントン・ウクマール小学校での植樹を実現している、とても熱意のある女性です。リュブリャナ市立博物館は、町の歴史を展示する博物館。ナダさんはここの中庭がいいと思い、担当者とコンタクトを取り続けましたが、博物館がリニューアルすることになり中庭がなくなってしまいました。そこで、式典・ワークショップは博物館で実施され、柿の木はポット植えし、2～3年後に市内にあるチボリ公園に地植えすることになりました。この公園は、市内で一番大きな公園で、市民の憩いの場所になっています。

ナダさんの呼びかけにより、さまざまな方が子どもたちを対象としたワークショップを開催してくれました。アーティストのプリモジュ・セリスカさんと地元小学生は大きな柿の木のドローイングを共同製作。博物館のホールに展示

しました。ボジダール・ヤカツ・リュブリャナ小学校の2年生の子どもたちはたんざくに詩を書いて、来てくれた方へ配ってくれました。5年前植樹をしたアントン・ウクマール小学校の40人の子どもたちはバスでフペルから来てくれ、日本語で「桜」の歌を披露してくれました。地元の自然科学工業大学の教師であるマリジェータ・ゴドレールさんによる柿の実おりがみワークショップが開催され、完成した柿の実は博物館ロビーに展示しました。地元で寿司屋を営む藤田たえこさんはお箸をつかってご飯を食べるワークショップを行いました。

式典にはリュブリャナ市の助役のミロスさんや博物館館長のテーヤさんが参加。海老沼先生、宮島さん出席のもと、柿の木はポットに植えられました。様々なワークショップで彩られた式典は、たくさんの地元のメディアがとりあげ、大きな反響を呼び、感動を広げました。



サルチェード小学校

🇮🇹 イタリア

📍 ヴィチエンツァ県・サルチェード市

🌱 2005年4月21日

イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブレーシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所に植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。



その中のサルチェード学校は、小学校と中学を抱える私立学園。植樹式は4月21日の午前8時45分から授業の一環で行われました。植樹式当日、空は晴れ渡り、遠くに山々が見ることができます。植樹式には市長、学校の校長先生、小学生の約80人が参加。市長、海老沼先生の挨拶とともに、子どもたちは共同で描いた原爆の絵や柿の木の絵を掲げ、歌と詩を披露してくれました。自然豊かな場所での、とても美しい植樹式でした。



ズリアーノ小学校

 イタリア

 ヴィチエンツァ県・ズリアーノ市

 2005年4月21日



イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブレーシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。

サルチェード小学校で植樹式の後、10時15分からズグリアーノ小学校での植樹式が行われました。

ここの植樹式では、子どもたちは黒いスモックを身に着け、植樹式に参加。校長先生の挨拶に始まり、子どもたちにより詩の朗読が披露されました。男の子が柿の木のドローイングを掲げる中、市の代表者と子どもたちにより柿の木が植樹されました。青空のもと、誠実さがにじみでるような植樹となりました。



モンテッキオ・プレカルチャー/図書館

 イタリア

 ヴィチエンツァ県・モンテッキオ・プレカルチャーノ市

 2005年4月22日

イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブレーシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所に植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。

4月21日のサルチェード小学校とズグリアーノ小学校の植樹に続き、22日午前9時からモンテッキオ・プレカルチャーノ図書館の植樹式が行われました。



植樹式には市内、図書館周辺の4つの小・中学校が参加、小学生から中学生の約250人の子どもたちが参加しました。



校長先生、市長、海老沼先生の挨拶につづき、モンテッ



キオ小学校の子どもたちにより歌が披露されました。先生のギター演奏の中、色とりどりのスカーフを振りながら歌を歌ってくれました。「子ども市長」によるイスラエルの平和の歌の歌詞の紹介があり、その歌を中学生がギター、たて笛、太鼓などにより合奏を披露してくれました。植樹は中庭で行われ、子どもたちはシャベルを代わる代わる持ち、柿の木の苗木に土をかけていきました。たくさん子どもたちが参加した、エネルギー溢れる式典となりました。

ドウエヴィッレ小学校

 イタリア

 ヴィチエンツァ県・ドウエヴィッレ市

 2005年4月22日



イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブラーシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所に植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。

4月21日のサルチェード小学校、ズグリアーノ小学校、22日の午前9時からのモンテッキオ・プレカルチーノ図書館の植樹に続き、午前10時

30分からドウエヴィッレ中学校での植樹式が行われました。

このドウエヴィッレ中学校では植樹に先駆け、生徒達が3週間かけて制作したさまざまなオブジェやドローイングが講堂内に展示されていました。制作物はとても大きく、2メートル近くある柿の木のオブジェなども展示されていました。講堂内での式典には100名の生徒が参加、代表の生徒による平和をテーマにしたパフォーマンスがいくつか披露され、詩の朗読も行われました。植樹は外で行われ、柿の木を中心に子どもたちが円を描くように囲み、進められました。校長先生につづき、生徒1人1人が大きなシャベルを持ち、順番に土をかけていきました。教師と生徒が一体となったとてもにぎやかな植樹式でした。

アーノルド・フジナート小学校、中学校

🇮🇹 イタリア

📍 ヴィチエンツァ県・ブレガンツェ市

🌱 2005年4月23日

イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブレイシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所に植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。

4月21日のサルチュード小学校、ズグリアーノ小学校、22日のモンテッキオ・プレカルチーノ図書館、ドウエヴィツレ中学校での植樹に続き、23日午前9時からブレガンツェ市のアーノルド・フジナート小学校とそして午前10時からアーノルド・フジナート中学校で植樹式が行われました。

小学校では150人の子どもたちが参加。体育館での式典となりました。校長先生の挨拶につづ

き、文化評議員の挨拶、海老沼先生の挨拶ののち、子どもたちにより歌やパフォーマンス

が披露されました。中でも5年生による歌「We are the world」の合唱が素晴らしく、感動から涙を流す参加者もいました。

小学校での式典ののち、中学校へ移動しての植樹式。中学校では子どもたちによる長崎と広島の原因の研究発表と質問会が行われました。「長崎に放射能は残っているのか?」、「日本に原爆はあるのか?」、「原爆症の方たちはまだ生きているのか?」、「被爆二世の方たちへの影響は?」、など、真剣で深い質問がありました。教室から外へつながる廊下には柿の木をテーマにした作品が制作され展示されていました。植樹は中学生80人で実施。ひとりひとりの手で土がかけられていきました。中学生らしい、少し大人っぽい植樹式でした。



コッローディ小学校

 イタリア

 ヴィチエンツァ県・ティエネ市

 2005年4月23日



イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブレーシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所に植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。

4月21日のサルチェード小学校、ズグリアーノ小学校、22日のモンテッキオ・プレカルチーノ図書館、ドウエヴィツレ中学校、23日午前9時からブレガンツェ市のアーノルド・フジナート小学校とそして午前10時からアーノルド・フジナート中学校の植樹に引き続き、午前11時からコッローディ小学校の植樹が行われました。

ティエネ市内にあるコッローディ小学校の名前はピノキオの作者の名前カルロ・コッローディから付けられています。

植樹式当日、校内には事前に柿の木をテーマにつくった作品が多数飾られていました。植樹式は市長、学校長、海老沼先生のスピーチのほか、「被爆柿の木二世の親の木はまだ生きていますか？」といった質問会が開かれました。地元TV局が取材に来ていたこともあり、賑やかで元気な植樹式となりました。

ヴィッラヴェル児童公園

🇮🇹 イタリア

📍 ヴィチエンツァ県・ヴィッラヴェルラ市

🌱 2005年4月24日

イタリア、ヴィチエンツァ県ヴィッラヴェルラ市在住の坂口まりさんと夫のデニス・ペザヴェントさんは2004年に実施されたベニールの公園（イタリア・ソンマカンパーニャ）での植樹式に参加したことをきっかけに、地元ヴィチエンツァでのプロジェクトを希望されました。ブレシアの植樹中心者のマニセラさんにも相談し、ヴィッラヴェルラ市役所の文化事業担当者と連絡をとりあいプロジェクトが進みました。当初はヴィッラヴェルラ市内の1箇所植樹をすることで話を始めたのですが、ヴィチエンツァ県全体の議会まで話が持ち上がり、最終的にヴィチエンツァ県内の10か所という、大型植樹が実現しました。

4月21日のサルチュード小学校、ズグリアーノ小学校、22日のモンテッキオ・プレカルチーノ図書館、ドゥエヴィツレ中学校、23日のブレガンツェ市アーノルド・フジナート小学校、アーノルド・フジナート中学校、コッローディ小学校の植樹に引き続き、24日にヴィッラヴェル児童公園での植樹式が行われました。ヴィッラヴェル児童公園は、一連のプロジェクトの最後の植樹場所。まりさんとデニスさんの思いが集約された、ヴィチエンツァ県の象徴的な植樹場所となりました。

ヴィッラヴェル児童公園には古い建物があり、そこを児童館として使用しています。児童館全体を使用した展示・ワークショップは圧倒的な迫力と、暖かな雰囲気を出していました。大勢の市民、大人も子供も来館し、一時は人で通行が困難になるほどの盛況ぶりでした。館内で行われた式典には地域の方、約200人が参加しました。市長、日本領事館の西山さん、海老沼先生の挨拶ののち、外へ移動。児童公園に柿の木が植樹されました。植樹後も館内全体を使用した展示と、昨年も協力していただいた日伊文化協会「FUJIKAI」による様々なワークショップが開催されました。

地元フレスコ画家・坂田秀夫、由美子夫妻による垂れ幕の展示、前日まで植樹した学校の子もたちが作った絵やオブジェが運び込まれ、再展示され、まるで柿の木美術館のようでした。広島、長崎原爆写真展。地元アーティストによる「平和」をテーマとしたインスタレーションなど大規模な展示も行われました。日伊文化協会「ふじ会」のメンバーにより実施されたワークショップでは、浴衣の着付けワークショップ、書道ワークショップ、折り紙ワークショップ、茶道ワークショップなどが行われ、弓道・居合い抜きの実演なども行われ、日本文化を紹介し国際交流を推進するワークショップが多数開催されました。



サン・ピエトロ・ムッソリーノ中学校

イタリア

ヴィチエンツァ県・サン・ピエトロ・ムッソリーノ市
2005年4月26日



サン・ピエトロ・ムッソリーノ中学校は駅から遠く、山が近くに迫る小さな街にあります。第二次世界大戦ではこの街も破壊され、教会に立てこもった司教や人々の逸話などが伝えられています。学校のすぐ裏にある庁舎の壁には戦時中の破壊の様子を描いたモザイク画があり、教会にはその記憶をとどめるモニュメントがあります。この中学校は2000年に植樹をしたG・ウンガレッティ国立中学校の分校。植樹中心者のリビオ・フェドリゴさんは美術教師で2000年に開催されたF.P. コルデノン中学校（ベネチア・サンタマリアディサーラ）での植樹式に参加していました。



植樹式には地元の小・中学校の子どもたちと日本人の幼稚園生の約200人が参加しました。開会の挨拶、こども市長（女の子）による歓迎のスピーチののち、パフォーマンスが行われました。原爆の灰と黒い雨に覆われた大地から柿の木二世が蘇生するストーリーです。年長の子もたちが原爆から蘇生までを演じ、最後に子ども

たちの描いた絵が合わさって、黒い布の上に大きな木が完成します。さらに、幼稚園の小さな子はリズムをあわせてポンポンを振る中、木に扮したこどもが詩を読み、歌を歌いました。このパフォーマンスは幼稚園から中学校まで、年齢の違う子どもたちがそれぞれにできることを行い、一緒に合わせて規模の大きな素晴らしいパフォーマンスを作りあげていました。体育館で演奏会と地元出身の国会議員によるスピーチが行われ、校庭での植樹となりました。

市にはアルビーニと呼ばれる元兵士のボランティア自衛団があり、そのアルビーニの方々とこども柿の木委員会の手により柿の木は

育てられていきます。アルビーニの方々は市長から柿の木を守り世話する任務を命じられ、式典中も柿の木を守って行進していました。アルビーニの老人のひとは、「私は戦時中に原爆のニュースを新聞で読んだよ、とても心配したんだよ」とイタリア語で話してくれました。

ファエターノ公園

 サンマリノ共和国

 ファエターノ

 2005年4月27日



1999年のベネチアビエンナーレでの展示の際、里親募集を見つけたダニエラ・トネリさん。当時はプロジェクトへの参加を望み、柿の木プロジェクトの事務局と手紙のやりとりをしていたのですが、ダニエラさんの仕事の関係で実現することはできませんでした。2004年、ダニエラさんからサン・マリノ共和国、州立美術館でのプロジェクト参加の正式な植樹申し込書が届き、5年ごしのプロジェクトが実現しました。

植樹式を前にして、ダニエラ・トネリさんとシルビア・メルリさん、ミレナ・ザノッティさんによるワークショップが開催されました。ワークショップは自然素材を使用し、子どもたちと作品を作りました。チョコレート、苺、コーヒー等を絵の具代わりに使い、体・手型を紙に押し、木の絵を描き、その上に叫ぶような子どもの顔のピンボケした写真をコラージュしています。アントニオ・フェリーチさんとダニエラさんによるポスターも制作され、植樹式の告知が行われました。

植樹式にはイル・ムリーノ小学校の生徒を含む子どもたち約100人と大人約250人が参加。サン・マリノ共和国大使館文化担当官、ファエターノ市長、国務長官、文部大臣、サン・マリノ日本協会の代表、在サン・マリノ日本国名誉総領事、在イタリア日本大使館公使等の様々な機関の方が集まり、式典は行われました。来賓者の挨拶と共に、アウグスト・ミケロッティさんが詩を朗読してくれました。メディカル・セラピストのマリナ・ザヴォリさんは、世界大戦中、中立国サン・マリノ共和国が多くの避難民を受け入れた話をしてくれました。植樹は子どもたちの手で行われ、一人ずつ小さなスコップで土をかけていきました。ファエターノ公園には仮植樹、9月に新しくオープンするイル・ムリーノ小学校へと移植予定です。



ランベール美術館



フランス



アヴィニョン



2005年4月29日

1998年にフランスのパリで開催された「どないやねん！」展、2004年にリールで開催された「あきまへん！」展で柿の木プロジェクトの紹介展示を行いました。それら一連の展覧会を企画したエリック・メジルさん。彼が館長を務めるランバート美術館が中心となり、美術館以外でも市内で里親をさがし、セント・ガブリエル小学校にも植樹が決定しました。当初、美術館では開催予定の美術展「ええじゃないか」展の時に植樹を実施する予定だったのですが、今回、小学校の植樹式に合わせて日程を延期、小学校と同時に美術館の敷地内に植樹することになりました。

澄み切った青空のもと、植樹式が行われました。美術館の中には事前のワークショップで制作された作品が展示され、美術館の門や樹木、さまざまな場所に平和の言葉が書かれた紙が飾られています。子どもたちは布でできた柿の葉を身につけ、美術館の壁には平和、柿の木に関する文字が記されたプレートが展示されていました。式典は子どもたちを含め、約150人が参加、海老沼先生出席のもと、参加者は平和の言葉を結びつけたオレンジと黄緑の風船を持ち、植樹される柿の木の苗木と一緒に美術館の周辺を行進しました。植樹場所までたどりつくと、柿の木の苗木は子どもたちの手で土がかけられていきました。植樹終了とともに、手に持っていたオレンジと緑の風船は空へ放たれ、苗木の周りにはそれぞれ持っていた柿の実折り紙や花が添えられ、周囲には旗が立てられ、まるでインスタレーション作品のようになりました。



サン・ガブリエル小学校

 フランス

 アヴィニョン

 2005年4月30日



1998年にフランスのパリで開催された「どないやねん！」展、2004年にリールで開催された「あきまへん！」展で柿の木プロジェクトの紹介展示を行いました。それら一連の展覧会を企画したエリック・メジルさん。彼が館長を務めるアビニオンのランバート美術館が中心となり、市内で里親をさがし、このセント・ガブリエル小学校に植樹が決定しました。この小学校は7年にわたり平和についての運動を行い、地元のNPO団体とも関わって活動を継続しています。

植樹にさきがけ、子どもたちからメッセージとワークショップの様子が事務局へ届けられました。学校の中には数ヶ月前から実施されているワークショップで制作された作品が展示されています。学校中に、柿の木や紛争、コミュニケーションに関する作品が展示され、壁に描かれた柿の木のドローイングには子どもたちが2人1組で行ったパフォーマンス写真が貼り付けられています。屋外にもそれらの写真が展示され、ランベール美術館同様、平和・被爆柿の木に関する言葉を記した布がたくさん飾られていました。

式典は子どもたちとその保護者、近隣の方々の約200人が参加。原爆のきのこ雲を象徴する大きな灰色の幕が垂らされ、それによってもちらされる「死」そして「蘇生」のパフォーマンスを見せてくれました。パフォーマンスの途中、土の入った柿の実折り紙が来場者の方々へ子どもたちから手渡されていきました。その後、大きな白い布を子どもたちみんなの頭の上へのせ、植樹場所まで行進。植樹は子どもたちの手で行われ、その後、「さだこの話」の紙芝居が披露されました。何ヶ月も前から準備して、よく学習してくれた素敵な植樹式になりました。



ハッセルト市日本庭園



ベルギー



ハッセルト



2005年5月8日

クストバンクのシモン・サーレンさんとリカ・コルパートさんはフランス・リールで開催された「あきまへん」展で紹介された柿の木プロジェクトの展示を見て、植樹を希望されました。打ち合わせのため、植樹前に来日もされています。クストバンクは美術館での企画のほかに、教育プログラムとして移動展示&ワークショップのプロジェクトをベルギー全国に対し実施しているグループです。

植樹式に合わせて事前に6つのワークショップが3日間にもわたり開催されました。クストバンクでインターン中のリーさんは「ボン（木）！ボン（原爆）！」と力強い声で『柿の木親子』の紙芝居を演じ、子どもたちをひきつけました。三嶋りつ恵さんによる「あなたの柿の実を折ろう」では柿の実折り紙を折りました。折った柿の実には名前を書いて、穴をあけ、緑の糸で可動式の木の形をした台に吊るしました。シモンさんによるワークショップ「Colourful wishes」では「平和って（なんだろう）？」と子どもたちに語り掛け、子どもたちはその答えをフラマン語で柿色の短冊に書き、2枚目を実行委員が日本語に訳して書きました。その後、短冊は折り紙と同じように台に吊るしました。短冊には「人をきらわないうで、いつも人を愛すること」



「平和、戦争がないこと、たくさんの友達」、「友情、戦争がないこと！！！！」

などの言葉が書かれています。

毎年5月8日はベルギーの「終戦を祝う日」です。この特別な日に合わせて被爆柿の木2世の植樹式が開催されました。植樹場所は市内にある日本庭園の日



当たりの良い緑地。周囲にはアーティストのシニカさんによるインスタレーションが展開され、木々につけられた大型のリボンが柿の木を歓迎しています。式典にはハッセルト市長、クストバンクのスタッフ、アーティスト、子どもたちを含む約60名の方々が参加しました。テントで折り紙ワークショップが行われ、柿の木の苗木を片手に庭園内の植樹場所までベルを鳴らしながら行進しました。植樹会場には昔からお祭りの時に使用される三角の旗が飾られています。実行委員から海老沼先生のメッセージが読みあげられ、柿の木風呂敷を贈呈しました。植樹は子どもたちの手で行われ、柿の木の周囲にはワークショップで撮影されたメッセージを持つ子どもたちの写真を切り抜いたものが立てられています。雨の多いベルギーですが、植樹の間は天気もくずれず、無事植樹式を終えることができました。

夢の森幼稚園

🇯🇵 日本

📍 神奈川県・川崎市

🌱 2005年5月13日

柿の実幼稚園は園児が約1400人もいるとても規模の大きな幼稚園です。山の中にある広大な敷地の園内（ほとんどひと山）には、子どもたちの工作教室「アトリエ柿の実」や、建物の床下がすべて迷路になっている遊び場、坂道の横には下まで一気にすべれるすべり台もあります。その柿の実幼稚園から5分ほど離れた場所に新しく、同じ経営になる「夢の森幼稚園」が開園する予定で、「アトリエ柿の実」の代表 矢野真一先生の申し込により、その敷地内に被爆柿の木2世の苗木が植えられることになりました。

森の中で行われた植樹式には新しい園舎の完成を待ち、新しく入園した夢の森幼稚園の園児約25名と保護者の方々、職員の方々が参加しました。園長先生、海老沼先生、宮島達男の挨拶のち、紙芝居「かきのきおやこ」が披露されました。屋外で舞台もない中、以前、幼稚園の園長先生だったという先生の手で演じられ、子供たちはみんな紙芝居に集中していました。たく

さんの参加者に見守られながら、代表の6人の男の子が柿の木の苗木に土をかけていきました。植樹場所は急な勾配の斜面。6人の男の子達は落ちそうになりながらも、しっかりと土をかけてくれました。

植樹後、幼稚園に併設されている「アトリエ柿の実」主導のもと、25名の園児と共にワークショップ「空気さんに線を引こう。風と遊ぼう」を行いました。いろいろな色のすずらんテープの一端を木に結び付けて、その反対側の端を持って、森の中を子どもたちが歩き回る。遠くまで行く子どもや山の斜面に上る子どもたちは途中の木にまきつけました。時間が経つにつれて、森の中に色とりどりのテープの線が走り、それらが風になびいて音をだし、とても良いインスタレーション空間ができあがりました。残らない作品なので少し残念のような気もしたのですが、子どもたちが楽しそうだったのがとても印象的なワークショップでした。



ハラミュージアム・パーク

🇯🇵 日本
📍 群馬県・渋川市
🌱 2005年5月14日



2004年11月から2005年1月まで植樹に先がけて開催された「『時の蘇生』柿の木プロジェクト in ハラ・ミュージアム・パーク」の展覧会が無事終わりました。会期終了4カ月後の5月14日、被爆柿の木二世の苗木が敷地内に植樹されました。




植樹式当日は「いのち」「再生」「未来」をキーワードにいくつかのワークショップを実施しました。松岡美術研究所の松岡マキ子さんによる早朝ワークショップでは、NHKの生中継もあり、柿の木を中心に子どもたちが牧場内の朝の

景色を描きました。樹木医の海老沼正幸先生と小池伸男先生による『「木のお医者さん」と語ろう』では、柿の木のものがたり、いのちの話をさせていただきました。ワークショップ『みんなで「再生」にチャレンジ-木から木を』では、敷地内に落ちている樹木の廃材を利用し、折り紙や紙風船と一緒に、廃材をコラージュして3本の柿の木を作りました。取り付けられた柿の葉には子どもたちにより「平和」へのメッセージが書かれています。

植樹式、被爆柿の木2世の苗木の周囲にはワークショップで「再生」された柿の木を配置しました。植樹は参加した子どもたちの手で行われ、柿の木の根元に代わるがわる土をかけていきます。植樹後もワークショップが開催され、美術館のガーデンではアーティストの木谷安憲さんによる「かきのきおやこ」の紙芝居が上演されました。昨年の11月、ワークショップで美術館内の壁面に制作された大きな柿の木の絵は植樹式の当日も参加する方々に披露され、この日「再生」された3本の柿の木も一緒に展示されました。



コリンウッド・スクール

 カナダ
 バンクーバー
 2005年6月3日

コリンウッド・スクールは5歳から18歳までの生徒1100人、教職員160人が在籍するとても大きな私立学校です。2003年に植樹をしたマルグレイブ・スクールの姉妹校に当たります。当時コリンウッド・スクールの在校生だったマキャリスターさんが、マルグレイブ・スクールでの植樹の話を友人から聞き、学年代表として植樹を希望しました。マキャリスターさんは在学中に植樹申し込みを行ったのですが、2004年にコリンウッド・スクールを卒業するため、学校の責任者であるエバンスさんに柿の木プロジェクトを引き継ぎました。



コリンウッド・スクールは交換留学を行っているため、さまざまな国の子どもたちが一緒に学んでいます。そんな中、教頭先生は自分の授業のなかで「SADAKO（広島の被爆少女の物語）」をテキストに選び、子供たちと原爆について学びました。また、アート教育にも力を注いでいて、子供たちが“平和とは？”という内容を絵と言葉で表現したものが展示されていました。植樹日が同校の「アートデー」ということもあり、

通常よりさらに多くの作品が展示されていました。



コリンウッド・スクールでは年に1度、卒業生による「母校訪問日」があります。その日に合わせて、卒業生から在校生へのプレゼントとして植樹を実施しました。卒業生と在校生の代表の子どもたち、日本領事館副領事、学校の教頭先生、地元メディアが出席する中、植樹式が行われました。エバンスさんによる開会宣言に始まり、マキャリスターさんから在校生に対するメッセージ（柿の木の歴史・この木を卒業生からプレゼントする意味など）が読まれました。日本領事館副領事からの挨拶、海老沼先生からのメッセージを実行委員が読み、在校生代表のこどもからは、柿の木のそばに設置するパネルの中身を読みあげてくれました。この日、2本の柿の木が植樹されました。1本はコリンウッド・スクール内のアッパー・スクール（12歳から16歳の子どもたちが通う学校）、もう一本は、プレパトリー・スクール（8歳から11歳の子どもたちが通う学校）に植樹されました。当日は2003年にマルグレイブ・スクールで植樹をしたマキャリスターさんの友人の方も参加してくださいました。また、日本人生徒のお母さんが来校し、生徒本人とエバンスさんに浴衣の着せ付けをしてくださり、2人は浴衣姿で植樹式に参加してくださいました。